

課題解決に向けた行動計画

青梅市立総合病院

2022年度
第2回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名（職種）
青梅市立総合病院	松井 孝至（医師）
	小松 あずさ（看護師）
	陶山 朋子（事務職）

① 選定した地域の課題

地域の緩和ケアリソースが限られている

- ・ 訪問診療医によりできることに限りがある（PCAポンプの活用やドレーン管理等）
- ・ 西多摩医療圏に緩和ケア病床が16床しかない
- ・ 医療機関により使用可能なオピオイドが限られている
- ・ 患者の希望する在宅療養、転院が難しい→地域全体の底上げが必要
- ・ 患者さんを地域に送った後の情報共有が不十分（地域とのカンファレンス等を積極的に行う）

② どんな地域を目指すのか

患者さんがどこにいても希望する適切な緩和ケアを受けられるような地域

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

地域の緩和ケアの底上げ

- 療養型病院では使用できる医療用麻薬などに限りがあるので、院内の医師がアウトリーチ (定期的に訪問し回診やデスカッションを行うこと) を行うことで使用できる薬剤を拡大していく
- 訪問医にPCAポンプの扱い方やドレーン管理等の研修を企画し、それらを扱える地域の医療者を増やす

地域の実態の把握

- 医療圏内のがん患者の看取りまでの動向、実態を把握する
- 他院との情報共有を行う (課題を話し合う)

④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

地域で何が問題となっているのかを把握する

- 地域唯一の緩和ケア病棟を持つA病院を訪問、意見交換を行う(令和4年度中)
- 地域の訪問看護ステーションB、Cを訪問、現状や連携に関する課題などを情報共有、意見交換を行う(令和4年度中)
- 地域でがんの診療をしている病院(療養型病院含む)D、E、F病院、在宅診療を担う(G、H)病院を訪問し、地域のがん患者の動向を把握する(令和5年度中)

地域の底上げをする(令和5年度中)

(院外)

- 緩和の医師が療養型施設等にアウトリーチして使用できる薬剤を拡大していく
- 退院前後のカンファレンスやデスカンファレンス等で情報を共有して学びを深める
- 院内の薬剤師と協力しながら薬薬連携のセミナーなどを通じて院外各薬局で使える薬剤を把握しつつ、情報共有を行う

(院内)

- 現在退院前のカンファレンスは診療科医師、病棟スタッフ、地域医療連携室スタッフが主に参加しているが、ケースに応じてがん相談支援センタースタッフ、緩和ケアチームメンバーが参加し、多職種で協働していく